

プログラム情報 変更申請 審査

研修プログラム名	高知大学整形外科専門研修プログラム
基幹施設名	高知大学医学部附属病院
統括責任者氏名	池内 昌彦

冊子情報詳細

専門研修プログラムの概要	<p>高知大学整形外科専門研修プログラムの目標と特徴 自立したプロフェッショナルとしての整形外科医師を目指して 高知大学整形外科専門研修プログラムは到達目標を「自立したプロフェッショナルとしての整形外科医師」としています。2017年からスタートした新専門医制度に先立ち、高知大学整形外科では、2009年より独自の後期研修プログラムを構築・運用してきました。その経験と実績により洗練された研修内容を提供します。</p> <p>整形外科学は、運動器の機能と形態の維持・再建をめざす臨床医学であり、脊椎、上肢、下肢などの広範な診療領域を扱います。高齢化型社会をむかえた我国においては、整形外科への期待はますます大きくなっています。現在、高知大学整形外科には、脊椎、股関節、膝関節・スポーツ医学、骨軟部腫瘍、上肢・手外科、足の外科、小児整形外科、リウマチ、骨代謝、リハビリテーション、運動器慢性痛などの診療・研究グループがあります。連携施設は、スポーツ医学、手外科、脊椎外科、関節外科、救急医療、リハビリテーションなどそれぞれに特色をもった大学、施設、病院があり、機能的なローテーションにより、プライマリケアから最先端の臨床・研究までを学ぶことができます。</p> <p>高知大学整形外科は、高知大学に併合される前の高知医科大学の創設から35年が経過し、整形外科全領域にわたる研究・教育・診療体制が整備されています。また、県内外の関連施設と連携して様々な分野での臨床・研究を進めています。</p> <p>高知大学整形外科研修プログラムを修了した専攻医は、あらゆる運動器に関する科学的知識と高い社会的倫理観を備え、さらに、進歩する医学の新しい知識と技能を修得できるような幅広い基本的な臨床能力（知識・技能・態度）が身についた整形外科専門医となることができます。</p>
専門研修はどのようにおこなわれるのか	<p>基本方針： 整形外科専門研修プログラム整備基準付属資料3「整形外科専門研修カリキュラム」に沿って、高知大学附属病院(基幹施設)および連携施設群において研修を行います。専門知識習得の年時毎の到達目標と専門技能修得の年時毎の到達目標は、整形外科専門研修プログラム整備基準付属資料1「専門知識習得の年次毎の到達目標」、資料2「専門技能習得の年次毎の到達目標」を参照して下さい。</p> <p>研修実績の記録と評価には、日本整形外科学会整形外科専門医管理システムを用います。専攻医は、各研修領域終了時および研修施設移動時に日本整形外科学会が作成したカリキュラム成績表の自己評価欄に行動目標毎の自己評価を行います。また指導医評価表で指導体制、研修環境に対する評価を行います。指導医は、専攻医が行動目標の自己評価を終えた後に、カリキュラム成績表の指導医評価欄に専攻医の行動目標の達成度を評価します。また、指導医は抄読会や勉強会、カンファレンスの際に専攻医に対して教育的な建設的フィードバックを行います。</p> <p>研修実績と評価をもとに、専門研修最終年度の3月に研修プログラム管理委員会において、専門研修修了判定を行います。</p>

専攻医の到達目標	修得すべき知識・技能・態度など	経験すべき疾患・病態、診察・検査等、手術処置等は、整形外科専門研修プログラム整備基準付属資料3「整形外科専門研修カリキュラム」に明示された症例数以上を高知大学附属病院及び連携施設で偏りがないように経験することができます。
各種カンファレンスなどによる知識・技能の習得		各研修施設の研修委員会の計画の下、症例検討・抄読会はすべての施設で行います。専攻医の知識・技能習得のためのセミナーを専門研修プログラム管理委員会が企画・開催します。
学問的姿勢		すべての専攻医が自ら経験した症例や取り組んだ研究の成果を発表する県内の研究会（集談会）を年3回開催しています。研究指導は各施設の指導医が行います。専攻医が学会発表年1回以上、また論文執筆を年1本以上行えるように指導します。専門研修プログラム管理委員会は全専攻医の学会発表数および論文執筆数を年1回集計し、面接時に指導・助言します。
医師に必要なコアコンピテンシー、倫理性、社会性		<p>研修期間中に下記のコアコンピテンシー習得を目指します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 患者への接し方に配慮し、患者や医療関係者とのコミュニケーション能力を磨くこと 2) 自立して、誠実に、自律的に医師としての責務を果たし、周囲から信頼されること（プロフェッショナリズム） 3) 診療記録の適確な記載ができること 4) 医の倫理、医療安全等に配慮し、患者中心の医療を実践できること 5) 臨床から学ぶことを通して基礎医学・臨床医学の知識や技術を修得すること 6) チーム医療の一員として行動すること 7) 後輩医師に教育・指導を行うこと 8) 地域医療の重要性を十分に理解し、地域住民の健康維持向上に貢献すること <p>整形外科専門医としての臨床能力（コンピテンシー）には、専門的知識・技能だけでなく、医師としての基本的診療能力（コアコンピテンシー）が重要であることから、どの領域から研修を開始しても基本的診療能力（コアコンピテンシー）を身につけさせることを重視しながら指導し、さらに専攻医評価表を用いてフィードバックをすることによって基本的診療能力（コアコンピテンシー）を早期に獲得させます。</p> <p>高知大学附属病院および各研修施設の医療倫理・医療安全講習会に参加し、その参加状況を年1回専門研修プログラム管理委員会に報告します。</p>

施設群による研修プログラムと地域医療についての考え方	年次毎の研修計画	<p>整形外科の研修で経験すべき疾患・病態は、骨、軟骨、筋、靭帯、神経などの運動器官を形成するすべての組織の疾患・外傷・加齢変性です。また新生児、小児、学童から成人、高齢者まで全ての年齢層が対象となり、その内容は多様です。この多様な疾患に対する専門技能を研修するために、整形外科専門研修は1ヶ月の研修を1単位とする単位制をとり、全カリキュラムを脊椎、上肢・手、下肢、外傷、リウマチ、リハビリテーション、スポーツ、地域医療、小児、腫瘍の10の研修領域に分割し、専攻医が基幹病院および連携病院をローテーションすることで、それぞれの領域で定められた修得単位数以上を修得し、4年間で48単位を修得する修練プロセスで研修します。</p> <p>本研修プログラムでは、専門知識を整形外科専門研修プログラム整備基準付属資料3「整形外科専門研修カリキュラム」に沿って研修し、知識能習得状況を6ヶ月毎に評価します（自己評価および指導医評価）。専門研修プログラム管理委員会による専攻医面接を年1回行い、評価したデータをまとめた評価表を参照し、知識習得に関する目標設定・取得単位調整・指導を行います。</p> <p>専攻医の過半数が獲得できていない知識があれば、これを獲得するためのセミナーを専門研修プログラム管理委員会が開催します。</p>
	研修施設群と研修プログラム	<p>本プログラムの連携施設は17施設（幡多けんみん病院、高知赤十字病院、あき総合病院、くばかわ病院、須崎くろしお病院、細木病院、土佐市民病院、海里マリン病院、愛宕病院、近森病院、倉敷成人病センター、福岡和白病院、新小文字病院、新武雄病院、新行橋病院、新久喜総合病院、JCHO東京山手メディカルセンター）です。このうち、幡多けんみん病院、あき総合病院、くばかわ病院、須崎くろしお病院は高知県指定医師不足地域中核病院に該当します。倉敷成人病センター、福岡和白病院、新小文字病院、新武雄病院、新行橋病院、新久喜総合病院、JCHO東京山手メディカルセンターでの研修は、高知県以外の地域における整形外科診療や疾病連携、病診連携を経験することを目的としています。それぞれの施設の研修可能分野とローテーション表と専攻医毎の年次別単位取得計画、指導医と指導分野を下表に示します。整形外科診療の現場における研修方法の要点については、整形外科専門研修プログラム整備基準付属資料13「整形外科専攻医研修マニュアル」を参照して下さい。</p>
	地域医療について	<p>本プログラムの研修施設群は高知県指定医師不足地域中核病院を含みます。すべての専攻医は高知県指定医師不足地域中核病院に6ヶ月以上勤務します。</p>
専門研修の評価		<p>専攻医および指導医は研修記録による研修実績評価を6ヶ月に1回行い、（9月末および3月末）専門研修プログラム管理委員会に提出します。</p> <p>他職種も含めた高知大学附属病院および各研修施設での研修評価（態度も含めた総評）を各施設での研修終了時に行います。</p> <p>専攻医は研修プログラムの取得単位、学会発表・論文執筆数、教育研修講演受講状況を年度末に専門研修プログラム管理委員会に提出し、専門研修プログラム管理委員会で評価します。</p> <p>上記の総評を専門研修プログラム管理委員会で年1回年度末に評価します。</p>
修了判定		<p>修了判定</p> <p>①各修得すべき領域分野に求められている必要単位を全て満たしていること</p> <p>②行動目標のすべての必修項目について目標を達成していること</p> <p>③臨床医として十分な適性が備わっていること</p> <p>④研修期間中に日本整形外科学会が主催又は認定する教育研修会を受講し、所定の手続により30単位を修得していること</p> <p>⑤1回以上の学会発表、また筆頭著者として1編以上の論文があること</p> <p>以上①～⑤の修了認定基準をもとに、専攻研修4年目の3月に専門研修プログラム管理委員会において修了判定を行います</p>

専門研修管理委員会	専門研修プログラム管理委員会の業務 <p>高知大学附属病院に専門研修プログラムと専攻医を統括的に管理する整形外科専門研修プログラム管理委員会を置きます。本研修プログラム群には、整形外科専門研修プログラム統括責任者1名と副プログラム統括責任者1名を置き、副プログラム統括責任者はプログラム統括責任者を補佐します。</p> <p>専門研修プログラム管理委員会は専門研修プログラム統括責任者を委員長とし、各連携施設の専門研修指導責任者を委員とします。</p> <p>高知大学整形外科医局に専門研修管理事務局を置き、専門研修管理に係る財務・事務を行います。</p> <p>年2回の定期委員会を開催します。</p> <p>3月に専攻医4年次の修了判定委員会を行います。</p> <p>必要時に臨時委員会を開催します。</p> <p>活動報告および研修プログラムはホームページで公開します。</p>
専攻医の就業環境	<p>基幹施設である高知大学附属病院は専門研修プログラムを管理し、プログラムに参加する専攻医および連携施設を統括します。高知大学附属病院は研修環境を整備し、専攻医が整形外科の幅広い研修領域が研修でき、研修修了時に修得すべき領域の単位をすべて修得できるような専門研修施設群を形成し、専門研修プログラム管理委員会を中心として、専攻医と連携施設を統括し、専門研修プログラム全体の管理を行います。</p> <p>専門研修プログラム管理委員会は、専攻医に対するアンケートと面接で各施設の就業環境を調査します。就業環境に改善が必要であると判断した場合には、当該施設の施設長、専門研修指導責任者に文書で通達・指導します。</p>
専門研修プログラムの改善	<p>専門研修プログラム管理委員会で年1回検討し、必要に応じてプログラム改定を行います。</p>
専攻医の採用と修了	<p>採用は面接で行います。</p> <p>専攻医および指導医は研修記録による研修実績評価を6ヶ月に1回行い、(9月末および3月末)専門研修プログラム管理委員会に提出します。</p> <p>他職種も含めた高知大学附属病院および各研修施設での研修評価(態度も含めた総評)を各施設での研修終了時に行います。</p> <p>専攻医は研修プログラムの取得単位、学会発表・論文執筆数、教育研修講演受講状況を年度末に専門研修プログラム管理委員会に提出し、専門研修プログラム管理委員会で評価します。</p> <p>上記の総評を専門研修プログラム管理委員会で年1回年度末に評価します。</p> <p>修了要件は修了判定を参照ください。</p>
研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件	<p>傷病、妊娠、出産、育児、その他やむを得ない理由がある場合の休止期間は合計6ヶ月間以内とします。限度を超えたときは、原則として少なくとも不足期間分を追加履修することとなります。疾病の場合は診断書の、妊娠・出産の場合はそれを証明するものの添付が必要です。留学、診療実績のない大学院の期間は研修期間に組み入れることはできません。また研修の休止期間が6ヶ月を超えた場合には、専門医取得のための専門医試験受験が1年間遅れる場合もあります。専門研修プログラムの移動に際しては、移動前・後のプログラム統括責任者及び整形外科領域の研修委員会の同意が必要です。</p>
研修に対するサイトビギット(訪問調査)	<p>このプログラムおよび専門研修プログラム管理委員会はサイトビギットを含む第3者の評価・指導を受けます。またその際に研修プログラム統括責任者、研修連携施設指導管理責任者、指導医ならびに専攻医は真摯に対応いたします。</p>

<p>専門研修指導医 最大で10名までにしてください。 主な情報として医師名、所属、役職を記述してください。</p>	<p>池内昌彦（高知大学附属病院・教授） 岡上裕介（高知大学附属病院・准教授） 喜安克仁（高知大学附属病院・講師） 泉 仁（高知大学附属病院・准教授） 田所伸朗（高知大学附属病院・講師） 阿漕孝治（高知大学附属病院・学内講師） 佐竹哲典（高知大学附属病院・特任助教） 杉村夏樹（高知大学附属病院・助教） 古月拓己（高知大学附属病院・特任助教） 團隼兵（高知大学附属病院・助教）</p>
<p>Subspecialty領域との連続性</p>	<p>整形外科専門医のサブスペシャルティ領域として、日本脊椎脊髄病学会専門医、日本リウマチ学会専門医、日本手外科学会専門医があります。本プログラムの高知大学医学部附属病院および連携施設にはこれらサブスペシャルティ領域の研修施設が複数含まれています。整形外科専門研修期間からこれらのサブスペシャルティ領域の研修を行うことができ、専攻医のサブスペシャルティ領域の専門研修や学術活動を支援します。</p>

専攻医の待遇 (基幹施設)	雇用形態 常勤(任期の有無)・ 非常勤	常勤	任期の有無	無
	非常勤			
	給与 月額 または年額 いずれか	月額	円	
		年額	円	
	諸手当 当直、時間外、賞与	当直手当		
		時間外手当		
		賞与		
		その他		
	健康保険 (社会保険) 組合・共済・協会・国保			
	医療賠償責任保険の適用 病院加入・個人加入			
	勤務時間(できるだけ記載してください)			
	週休			
	休暇(年次有給・夏季休暇) 例; 有給20日 夏季休暇3日など			
	時間外勤務 (時間外手当を給付するもの) 有・無	無		
	当直回数			
	勤務上限時間の設定 有・無 月・時間	無	有の場合	月時間

専攻医の待遇 (連携施設 例)	雇用形態	常勤	常勤任期有無	無
		非常勤		
給与 月額 または年額 いずれか	月額	円	常勤任期有無	無
	年額	円		
手当	当直		常勤任期有無	無
	時間外			
	賞与			
	その他			
健康保険 (社会保 険) 組 合・共済・ 協会・国保	無			
医療賠償責 任保険の適 用 病院加 入・個人加 入	無			
勤務時間(で きるだけ記 載してくだ さい)				
週休				
休暇 (年次 有給・夏季 休暇) 例; 有給20 日 夏季休 暇3日など				
時間外勤務 (時間外手 当を給付す るもの) 有・無	無			
当直回数				
連携例 勤 務上限時間 の設定 有・無	無	有の場合	月時間	

詳しい専門研修概要（冊子）URL	http://www.kochi-u.ac.jp/kms/sotu5/technical/index.html (http://www.kochi-u.ac.jp/kms/sotu5/technical/index.html)
------------------	---

